

第 34 期社会教育委員会議 提言書（案）

生涯学習ガイドについて（仮）

第 34 期（令和 5 年 6 月 1 日～令和 7 年 5 月 31 日）

富士見市社会教育委員

	氏名	所属
議長	本田 律	居場所サポーターズ CoCo いる
副議長	渡邊 知広	生涯学習推進市民懇談会
	國府田 祐子 ※令和 6 年 10 月から	淑徳大学教授
	内海 幸一郎	市校長会
	秋元 節子	子ども食堂
	小栗 知実	子ども大学ふじみ実行委員会委員
	関野 陽一	資料館市民学芸員
	戸田 信江	民生児童委員
	八木橋 覚	地域子ども教室
	深瀬 祐二	公募

目次

1	はじめに.....	2
2	富士見市の社会教育の課題.....	2
3	講じるべき策を考える.....	3
4	生涯学習ガイド.....	3
5	生涯学習ガイドリニューアル・プラン.....	4
5-1	冊子の名称・用語.....	4
5-2	構成.....	5
5-2-1	媒体による性質の違いを意識する.....	5
5-2-2	内容の分類・整理方法を分かりやすくする.....	6
5-2-3	導入のページを作る.....	6
5-3	ウェブ媒体との連携.....	7
5-4	生涯学習ガイドの広報・PR.....	7
5-4-1	冊子の配布場所を拡大する.....	8
5-4-2	チラシ等も活用してプロモーションする.....	8
6	おわりに.....	9

1 はじめに

第34期社会教育委員会議では、生涯学習推進アクションプラン等の分析や委員間での議論を経て、富士見市の社会教育の強みと弱みを検討した結果、「数多くの多様な人たちが、ハードルを感じず参加でき、自分なりの適度な距離間で自ら望んで関わり続けられる、地域の間づくり」を理想の姿と考えた。この理想の姿を実現するために必要な方策を検討し、まず第一に行うべきこととして生涯学習ガイドの活用を提言することとした。

富士見市では様々な社会教育活動が行われている。水子貝塚資料館や難波田城資料館、キラリ☆ふじみなど、特色ある施設もある。富士見市にある豊富な資源が活用され、誰もが必要なタイミングで社会教育活動に参加できるよう、生涯学習ガイドという情報媒体を活用してほしい。誰もが使いやすい生涯学習ガイドを、誰もが手に入れやすい状態にすることで、社会教育に一步を踏み出す後押しにつながるはずだ。

2 富士見市の社会教育の課題

生涯学習推進基本計画のアクションプランを参考に、富士見市の社会教育の現状を確認した。様々な取り組みが行われていることが分かり、その取り組みの豊富さや、資源の多さ（施設や団体も含めて）は、大きな強みと言ってよいだろう。

一方で、社会教育における理想の姿を考えた時に重要な要素として、つながりやすさ、それから適切な情報発信・広報の充実が挙げられるが、これらの点については、富士見市においては大きな課題が残るのではないかと。私たち社会教育委員は、日頃から社会教育に関して比較的アンテナは高い方だと自負しているが、アクションプランを確認して初めて知った取り組みもあった。

また、社会教育における理想の姿として、数多くの多様な人たちが、ハードルを感じず参加でき、自分なりの適度な距離感で、自ら望んで関わり続けられる地域の間づくりが必要ではないかと考える。仕事や育児など、人によって様々な事情がある。誰もが忙しい現代においては、その人のライフスタイルに合わせて、負担に感じない程度に、しかし必要だと感じた時は確実に社会教育活動に係ることができるような仕組みづくりが必要だろう。

3 講じるべき策を考える

富士見市の現状を鑑みるに、必要な対策の1つに、情報の集約化を挙げることができる。例えば社会教育に関する活動をしている団体やイベントをまとめた、アクセシビリティのあるプラットフォームなどがあるとよい。活動している側は、仲間を見つけやすく、また他の団体と協力し新たな活動へと広げ得る。参加する側は、興味があるものを探しやすく、より参加しやすくなり得る。どんな団体がいるのか、どんなイベントがあるのか。多くの市民が知るために一覧できるものがあること。そして、それが広く市民の間に普及することが必要だ。必要な人の参加を促すことができるし、活動同士がつながるきっかけとなり得るのではないか。

市民にとっても大きなメリットだが、これは行政側にとっても重要なことだと考える。市民の活動を知るきっかけになるし、他課の取り組みを知るきっかけにもなりうる。市民の活動を軸に、行政内の横の連携にもつながり得るのではないか。

情報が集約されたものとして、既存のものにはどのようなものがあるのか。確認したところ、イベントカレンダーや生涯学習ガイド、人材バンク登録者一覧、公の施設利用団体・サークル一覧があることが分かった。しかし、これらは、情報として過不足はないのか。使い勝手は良いのか。必要な人に届いているのか。作って終わりではなく、実際に活用されてこそ意義がある。

素材はある。部分的に整理もされている。これらの情報源を、いかに有機的につなげることができるかが重要であろう。

4 生涯学習ガイド

生涯学習ガイドは、生涯学習課が年に1回発行している、市内の生涯学習に関する情報を集約した情報紙である。ホームページで公開されており、また公共施設にも置いてあるという。

内容を見ると、富士見市役所の各課が開催する「事業・講座等」や「イベント・交流」が、「育児・親子・青少年向け」と「一般向け」とでそれぞれ掲載されている。また「サークル・団体情報」、「講師などの派遣情報」、「生涯学習関連施設」も掲載されている。

様々な情報が集約されているという点で、この生涯学習ガイドは、富士見市の社会教育における課題解決に向けて大きな役割を果たし得る。そこで、既存のこのガイドを活用し、社会教育の理想の姿「多くの多様な人たちが、ハードルを感

じず参加でき、自分なりの適度な距離感で、自ら望んで関わり続けられる地域の場づくり」に、より大きく役立つよう、生涯学習ガイドの理想の形を検討したい。

5 生涯学習ガイドリニューアル・プラン

理想の形の生涯学習ガイドについて、まず考えなくてはいけないのは、いかにその存在を知ってもらうか、興味を持ってもらうか、という点だろう。中身をいくら充実させたとしても、手に取ってもらい、そして実際に使ってもらえなければ意味がない。そこで、以下の4点について検討していく。

- ① 冊子の名称・用語
- ② 構成
 - ②-1 媒体による性質の違いを意識する
 - ②-2 内容の分類・整理方法を分かりやすくする
 - ②-3 導入のページを作る
- ③ ウェブ媒体との連携
- ④ 生涯学習ガイドの広報・PR

5-1 冊子の名称・用語

手に取るかどうかは、その名称も大きく影響する。中身が想起しやすい名称が望ましいのではないか。また固い表現を避け、柔らかい雰囲気の名前にできれば、より手に取ってもらいやすくなるのではないか。

- 例
- ・たのしく つながり まなぼう ～富士見市生涯学習ガイド～
…ガイドの目標を分かりやすいことばで表現
 - ・生涯学習コンパス
…学習者が自分の進むべき方向を見つける助けとなるものだと想起させる
 - ・人生 100 年時代の学びと趣味と交流の手引き～富士見市生涯学習ガイドブック～
…興味関心を持ってもらう
 - ・富士見市「生き生き、学び」情報誌
…「生涯学習ガイド」だと少し堅苦しく分かりづらい

- ・じぶん時間～自由・自己実現・つながり、富士見市生涯学習ガイドブック～
- ・豊かに暮らすヒント集～生涯学習ガイド～
 - …表現を柔らかく。何か探している人の手助けになりたいという気持ちを含めて
- ・ふじみ学習ガイド
 - …表現を柔らかく
- ・はじめるガイド
 - …学ぶ、学習という表現は人によってはネガティブなイメージを持つ。何かを始める、その一步を踏み出す人を応援するという姿勢を示す。

またガイド内で使用されている言葉についても一考が必要だろう。例えば「事業」という言葉が使われているが、これは一般向けの言葉ではない。講座やイベントとの違いも分かりにくい。読み手（≒市民）を意識した言葉を使っていく必要があるだろう。

5 - 2 構成

構成についても、分かりやすさが重要だ。日頃から業務として携わっている行政職員の目線ではなく、「生涯学習」を意識していない市民の目線に立って構成を考えるべきであろう。市民にとって分かりやすい構成にするために、必要な視点を3つ指摘したい。

- ① 媒体による性質の違いを意識する
- ② 内容の分類・整理方法を分かりやすくする
- ③ 導入のページを作る

5 - 2 - 1 媒体による性質の違いを意識する

情報を集約するにあたり、どのような情報を、どこまで掲載するかが問題となる。理想を言えば、いくつかの分類で整理して、複数の切り口から情報を検索することができる形だろう。しかしウェブ媒体では可能でも、それを紙媒体で実現することは現実的でない。行政であるから、ウェブ媒体の方が使いやすい人、紙媒体の方が使いやすい人、どちらの人にも情報が届くよう整える必要があるだ

ろう。となると、それぞれの媒体のメリット、デメリットを考えて、掲載する情報を選定すべきであろう。

紙媒体には恒久性があり、ウェブ媒体にはスピード性があると言える。変わりやすい細かな情報はウェブ媒体で案内し、変化しにくい基本的な情報を紙媒体に掲載するのがよいだろう。ただし、紙媒体においては載せられる情報量に限界がある。載せきれない情報をどこで得られるのか、例えば詳細は担当課へ問い合わせよう案内できれば、紙媒体しか使えない人にも完結した情報を提供することができるのではないかな。

5-2-2 内容の分類・整理方法を分かりやすくする

現行の生涯学習ガイドにおいては、対象別（「育児・親子・青少年向け」と「一般向け」）で、「事業・講座等」と「イベント・交流」とに分類されている。

対象毎に整理するという考え方も分かるが、そうすると、参加してみたいが自分には対象ではない、と参加を諦めてしまう人が出てしまう。またさらに下位分類として「育児・親子」「小学生」などを設定しているが、実際に分類されているものを見ると、その分類で妥当なのか、疑問が残るものもある。人によって解釈が分かれてしまうからだ。

検索のしやすさを考えて、内容の分類・整理方法は、誰もがイメージしやすい方法を採用した方がよい。作成者による分類のブレを防止することも鑑みると、担当課ごとに掲載する方法が最も分かりやすいのではないだろうか。市役所の課名は、その課がなにを担当しているか分かりやすい名称となっている。担当課を見れば、どのような層を対象としたイベントなのかイメージしやすいだろう。

5-2-3 導入のページを作る

繰り返しになるが、生涯学習ガイドを読み、使ってほしいのは市民である。市民の中には、そもそも「生涯学習」という言葉に馴染みがない人も多いだろう。生涯学習に関して知識がない人が読むことも想定して作る必要がある。

冊子の最初の2、3ページが与える印象はとても重要だ。その冊子を引き続き読むか、読むのをやめるか、判断に関わってくる。おもしろそう、もっと知りたいと興味を持ってもらえるよう、いきなり情報を羅列するのではなく、導入のページを作成し、読者を引き込む工夫をする必要があるだろう。

例 ・ガイドそのものの説明

…なにが書いてあるのか、どういった使い方ができるのか説明する

- ・生涯学習関連施設の一覧と概要
 - …地図を使って、どこにどんな施設があるのか分かりやすくする（地図であれば、自宅に近い施設が一目で分かる）
- ・利用者の声
 - …漠然とした気持ちでガイドを手にする人もいる。道しるべとして実際に活動に参加している方の声を載せ、雰囲気イメージしてもらいやすくする
- ・YES・NOチャート
 - …何がしたいか分からないが、なにかを始めたいという人もいる。「おすすめ」が示せれば、取り組みやすい
- ・他に参照すべきサイトやページ
 - …ウェブ媒体が使える人に向けて、詳細な情報が載っているページを二次元コード等を活用して掲載する

5 - 3 ウェブ媒体との連携

前述のとおり、紙媒体に載せられる情報量には限界がある。紙媒体のみ利用する人に対しては、担当課の連絡先を案内することでつなげることができる。ウェブ媒体も使える人に対しては、詳細な情報が掲載されているページを案内するのがよいだろう。

例 ・市ホームページ

- …イベントカレンダー
 - 窓口・施設案内
 - 公共施設予約システム
 - 子育て・教育
 - 観る・楽しむ
 - 公の施設利用団体・サークル一覧
- ・社会福祉協議会の富士見市ボランティアセンター

5 - 4 生涯学習ガイドの広報・PR

生涯学習ガイドは、作って終わりではない。誰かの生涯学習活動、社会教育活動の一步を後押ししてこそ意義がある。広く活用してもらうためには、手に入りやすい状態にすること、それからプロモーション活動が欠かせないだろう。

5-4-1 冊子の配布場所を拡大する

現在、生涯学習ガイドは、市内公共施設及び関係課の窓口23か所に3部ずつ配布されているという。しかし、公共施設を利用しない市民も多い。より多くの市民の目に触れるよう、冊子を置く場所は拡大した方がよい。

例 ・生涯学習に興味関心が高い人が訪れる場所

…公民館や図書館、資料館といった生涯学習関連施設

高齢者福祉課の窓口

健康増進センター

リサイクルプラザ利彩館

キラリ☆ふじみ

献血会場

ふるさとハローワーク

・手持無沙汰な人がいる場所

…医療機関

市民課の窓口

郵便局

・情報を欲している人が訪れる場所

…市民課の窓口（転入者）

不動産仲介業者・住宅販売業者の店舗

子育て支援課の窓口

小・中学校

児童館

保育園や幼稚園

なお、公共施設に配布することはもちろんだが、殊に生涯学習関連施設においては、ただ配布するだけでなく、掲示に力を入れた方がよい。公民館には社会教育士や社会教育主事、公民館主事など有資格者が配属されている。ナビゲーターの存在は、参加するにあたってのハードルを下げしてくれる。その存在を周知することと併せて、生涯学習ガイドの存在を周知できると効果的であろう。

5-4-2 チラシ等も活用してプロモーションする

多くの市民に知ってもらうためには、プロモーションが欠かせない。冊子を配布するだけでは不十分だ。興味がある人しか冊子を開かない。内容を端的に示し、

興味を引くような見せ方をする必要がある。冊子を配布するのは、学びの場として機能している場所、訪れる人が学びに対して意欲的な状態になっている場所（5-4-1で挙げた「生涯学習に興味関心が高い人が訪れる場所」）が相応しいだろう。一方で多数の人が訪れるような場所（5-4-1で挙げた「手持無沙汰な人がいる場所」「情報を欲している人が訪れる場所」）は、チラシ等を活用して積極的にプロモートしていく必要があるだろう。

チラシの作成にあたっては、二次元コード等を活用してより詳細な情報へアクセスできるようにし、生涯学習ガイドそのものを広く知ってもらえるようにするのがよいだろう。またチラシという形であれば、冊子を配布できない場所・機会であっても配布することができる。

- 例
- ・ 広報「富士見」と一緒に全戸配布、もしくは回覧
 - ・ 二十歳式
 - ・ 特定の年代を対象とした健診案内送付時

また、5-2-1において媒体による性質の違いを意識することについて触れたが、読者層を考慮した上で媒体を考慮することも必要だろう。デジタル世代が多く訪れる場所については、冊子を置いて活字で案内するより、チラシで二次元コードを案内し、ウェブ上へと誘導する方がより効果的ではないか。

- 例
- ・ 学校
 - ・ 児童館
 - ・ 保育園や幼稚園

6 おわりに

※委員のみなさんからいただく100文字感想文で締めくくる予定です※